

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	
1	52	共同生活介護としての建物の造りとしては大変恵まれていると思うが、建物内の空間が単調になりがちで、利用者が懐かしさを感じるような工夫が足りない。	明るく和やかな家庭的な雰囲気が漂う空間を提供することができる。	入居者の人格や個性を尊重した共同生活の空間が提供できるように取り組む。 ※①外観、②共有ルーム、③居室、④その他、4点に分けて取り組む。 ①外観: 事業所名にふさわしい花壇(バラ中心)を豊かにする。 ②共有ルーム: 季節感を感じるものとして花や四季の飾り付けや、利用者がアクティビティ活動で創った作品等を掲示する。 ③居室: 利用者が使い慣れたものを取り入れ、より家庭に近づいていくよう配慮する。 ④その他: 備品でも殺風景な雰囲気もなくすよう工夫する。 テーブルクロスやトイレのカーテンも単色でなく花柄にする等を取り入れる。 常に利用者に提供する生活空間は脱施設化を念頭において、利用者や家族と介護職員が話し合っ室内空間の取り組みをおこなう。	3ヶ月
2	4	運営推進会議に利用者の家族等の参加率が低い。原因として会議の開催意義が家族へ十分伝わっていないのでないかと考える。	運営推進会議の開催意義が見出せる運営進行を実施して参加率をあげることができる。	2ヶ月に一度の運営推進会議の内容を協議する。 協議日は、開催の前月に当たる月に計画作成担当が集う会議に於いて運営推進会議の内容を協議する。 ①開催前の前月に開催のお知らせを郵送する。同時に前回の運営推進会議の議事録を同封すること。 ②定期的に家族向けにアンケートを郵送する。特に会議の欠席が続いている家族には参加できない理由や参加できる条件等を質問する。 このアンケート結果から今後の会議の開催日や運営進行を検討して改善を図っていく。	12ヶ月
3	6	一部の玄関は24時間施錠となっている。利用者が自分の意思で開けることができない状況は身体拘束であると認識しているが実践できていないのが実情である。日中は鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねて行こうとする職員一人々の意識改革が課題であると考え。	日中は玄関を施錠しない環境を提供し、単独に敷地外に出ても安全の保証が確保できる。	介護職員に身体拘束の学習を実施し「利用者が自分の意思で開閉できない部屋に隔離することは拘束であり、玄関もその対象になる」との認識を深める。 ①近隣に独りで歩いている利用者を見たら通報して頂くように連絡網を作成し地域ぐるみで協力体制を得る。 ②離設時に於ける緊急時の訓練を定期的の実施して対応を周知する。 ③離設した利用者に対する職員の対応方法を学習する。	3ヶ月
4	43	共有ルーム(食堂)に壁一枚隔てた隣りは共用トイレになっていて、しかも、のれん型のカーテンを設置しているだけのため、トイレの中が露出しプライバシーの確保が不十分な状況である。	プライバシーが確保されている環境が提供できる。	トイレの出入りに扉を設置すると、車椅子の入居者が通れない。 そこで、現時点で実行できるのは、出入り口と同じ丈のカーテンを取り付けること。カーテンのデザインは花柄にして明るく清潔な空間を出せるよう工夫する。 ※床のフローリング化(内装工事)を提案する。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。